

©創通エージェンシー・サンライズ

**MG**  
MASTER GRADE

機動戦士ガンダム  
サンライズ  
0070949

UNICORN GUNDAM TYPE-D

EXCLUSIVELY FOR CONTROL  
ESPECIALLY ACTIONS AS MG CD  
FOR IMMEDIATE RELEASE DATE

**BANDAI**

BANDAI 1999 MADE IN JAPAN

パッケージの写真・イラストと商品とは、多少異なりますのでご了承ください。



MOBILE SUIT  
RX-78NT-1

# GUNDAM NT-1

E.F.S.F.PROTOTYPE  
MOBILE SUIT FOR NEWTYPE

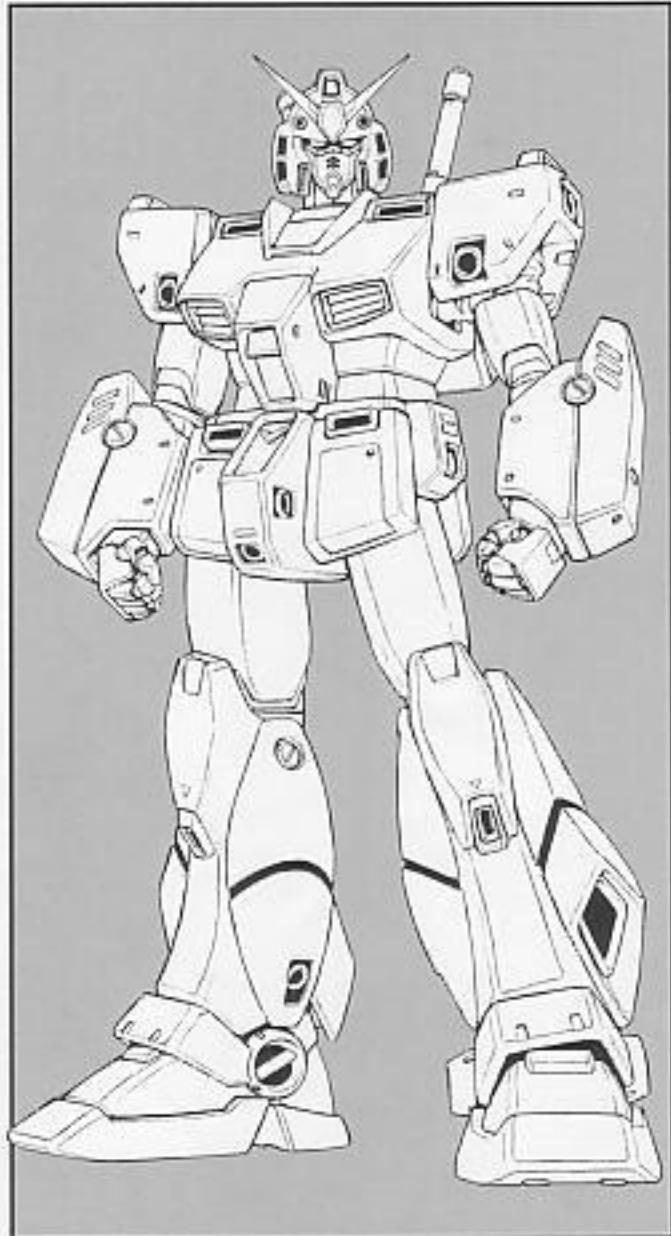


BANDAI 1999 MADE IN JAPAN

地球連邦軍  
ニュータイプ専用モビルスーツ  
ガンダム RX-78 NT-1  
1/100スケール  
マスターグレードモデル

Scanned by Dolong.net





U.C.0079年9月以降、民間人の少年アムロ・レイが、訓練も受けずにM5という巨大な人型兵器を駆使させた上、自覚美しい結果を上げ続けていた。

連邦軍は、M5の量産こそが戦局打開の方策であるとして「RX計画」及び「V作戦」を開発していたが、彼の登場によって、パイロットという、M5には不可缺のファクターを再認識させたのである。無論、M5の生産性や機能の向上は必須の問題ではあったが、アムロ・レイは、M5の操縦に習熟するにつれ、機体の適応性などにストレスを感じていったという。これは、機動兵器開発の側面からも無視できない要素であったし、事実、それは一部の技術者たちの予想を実証するものであった。彼らは、NT(ニュータイプ)概念そのものを実証する「近因」を手に入れたのだ。そして、アムロを基準として連邦軍におけるNT対応機の探索が始まったのである。

公国軍によるNT研究は、U.C.0079年の6月に開始されたが、フラナガン博士による基礎研究はすでに10数年に及んでいた。連邦軍におけるNT対応兵器の開発は、同年の9月に開始されたものの、基礎研究が始まったばかりであり、また、例証も少なく再現性の低い事象の重複利用に連邦軍は消極的だった。それでも「RX計画」には「NT対応機」に近い概念も盛り込まれていたため、辛うじて研究は進展していたのである。元々、連邦軍のM5開発には、機体のレスポンスを向上させるという課題が設定されており、その研究が、アムロ・レイの報告やガンダムの実験データを基に、「マグネット・コーティング」処理へと進化していったのだ。連邦軍におけるNT対応機の開発は、その予想通り目標として、耐弾性と適応性の高い新設計の機体を開発することが当面の課題となつた。

サイド7の1パンチコロニーにおいて、連邦軍試験開発局の管轄下でロールアウトした「ガンダム」を始めとするRXシリーズは、原則的に3機づつ建造され、それぞれ1~3号機として、ある程度独自の設計が施されていたらしい。この計画は最高ラ

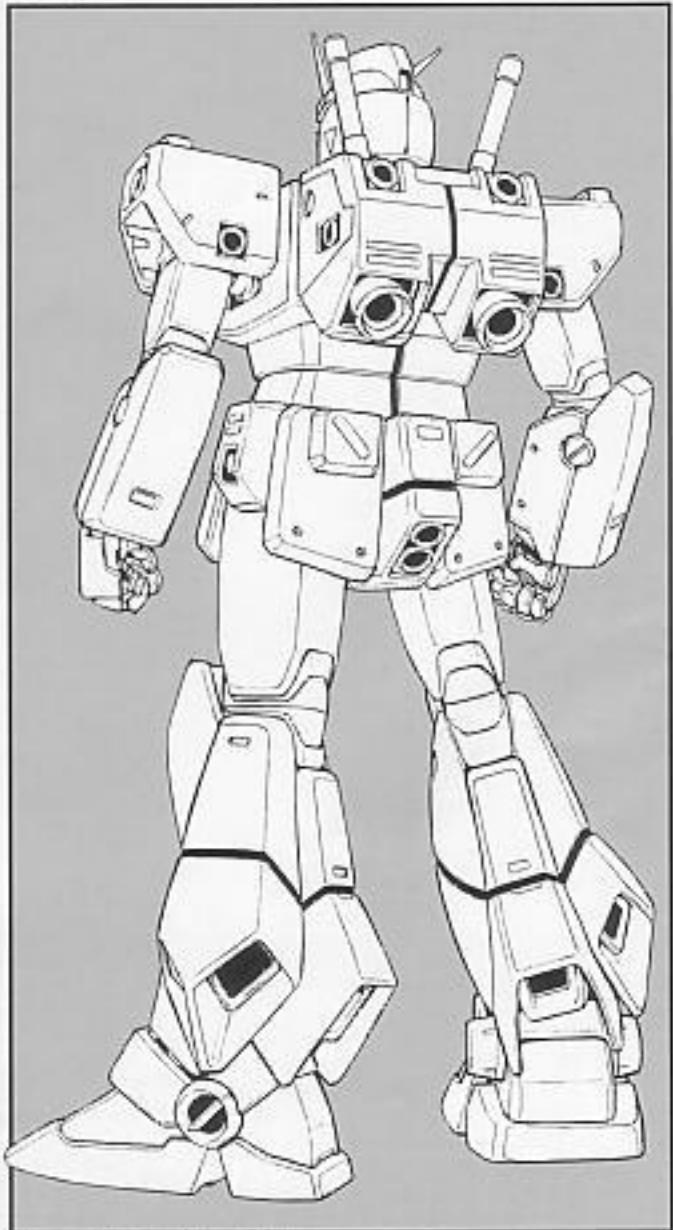
ンクの機密事項でもあったため、基本的に連邦軍の機械組織による情報統制が敷かれており、開発や量産の目途が立たず、詳細を知る者は軍上層部の中でもごく一部だった。しかし、「ガンダム」のロールアウトから間もなく、MS開発は制限が解かれ、各部門が独自に機体の開発と調達をすることが可能となつた。

いわゆる「4号機」以降の「ガンダム」が複数存在するのはこのためであると言われている。

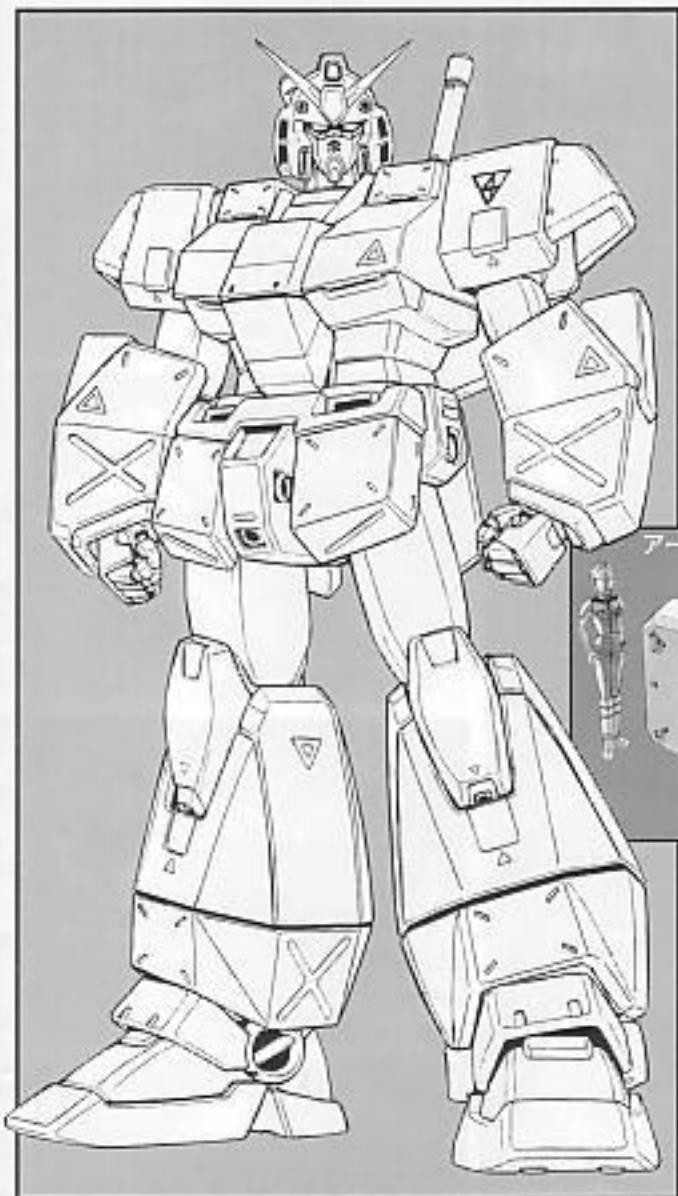
ともと、連邦軍全体の方針としては、本格的な標準機の設計完了と共に生産ラインが転換される予定であったが、技術士官の要望などもあって、極端な設計変更や規格外品でなければ、独自の設計に基づく機体の試作や量産は、担当部局の裁量に任されていたのである。こういった事情から、GM系のMSが、投入から3ヶ月後の期間内に多種のバリエーションを持つこととなり、開発初期の段階で、独自のコンセプトに基づく複数のリファレンス機が存在することとなつたのである。

NT対応機のベースとなった機体は、いわゆる「陸戦型ガンダム」や「ジム先行型」などのデータも盛り込まれている系統のもので、量産化を前提としない高性能機として開発されていたものであった。その開発時期としては、サイド7におけるガンダムのトライアルデータを基に、再設計を施された機体である「4号機」以降のガンダム系の機体群が開発されていたころであり、「アムロ・レイ」専用機として開発されたRX-78 NT-1、通称「アレックス」は、その内の一種なのである。

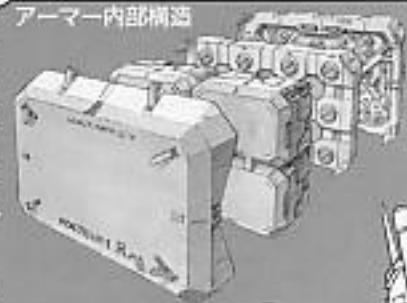
## GUNDAM RX-78 NT-1



Conceptual illustration: Hajime-Kazuki



アーマー内部構造



## FULL ARMOR

アレックスとは、ガンダム系の機体区分を表す“RX”と、装甲強化を目的とする“フルアーマー・オペレーション”的1プロジェクト「装甲層試験（Armor Layered EXamination=ALEX）」をかけた名称で、それまでに生産された機体とは開発拠点が異なるために避けられた愛称でもある。

この機体開発は極秘裏に進められていたため、アレックスには正規の軍事行動ではないことを示す「U.N.T=Under Normal Tactical=非通常戦術」と「SPACY=Special Assortment Construction Yard=特別分類建造場」が表示されている。この表記は、ある時期の連邦軍における機械計画のコードとして使用されていたもので、後の80年代まで使用されていたと言われている。もっとも、この表記自体、アレックスが露出される際に、「(旧) 国連宇宙戦術局=U.N.T.S=United Nations Tactical Spacey」を偽装したのだとも言われている（連邦政府組織内にそのような部局は実在しない）。

ちなみに、アレックスが装備する追加装甲は、単純に装甲強化を行うフルアーマー装備とは異なり、その機能と構造から、「チョバム（CHOBAM=Ceramics Hybrid Outer-gelled Blowup Act-on Materials=セラミックス複合外装による爆発反応材質）アーマー」と呼称されているのだが、実際の“チョバムアーマー”とは、旧世纪に開発されたNATO軍の戦車用装甲の一種で、英國のチョバム（CHOBHAM）地方で開発されたため、こう呼ばれる。それはスペースド・アーマーやリアクティブ・アーマーの複合装甲だったらしいと言われているが、アレックスが開発された頃は北米東岸であり、地理的にはベルファスト基地と近かったことを考えれば、実際にチョバム地方出身の技術者が開発に携わっていたのかも知れない。

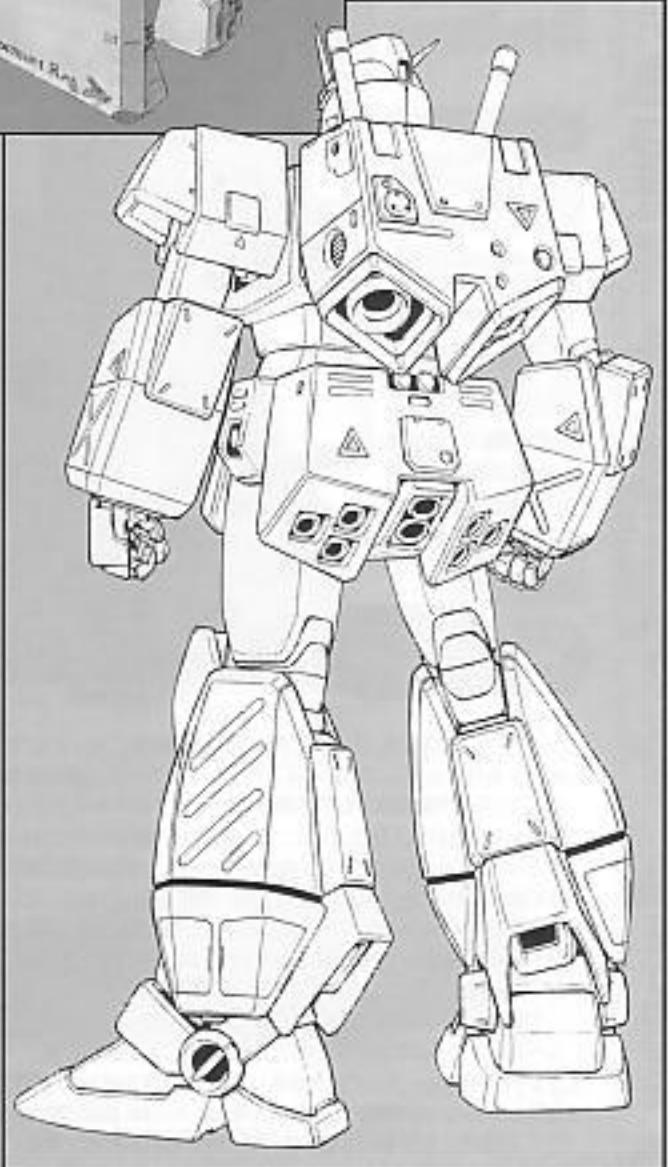
この機体を開発した連邦軍オーガスタ基地は、もともと兵士たちのメンタルヘルス

を研究していた部門であり、いわゆるNT概念を検証した論文を著した研究員がいたため、NT対応機であるアレックスの開発を担当することになったらしい。

公認軍において、エースパイロットと認めていたアムロ・レイや“白い奴”ガンダムを操る“白鳥”こと「ホワイトベース部隊」に、NT専用機がもたらされるという情報自体、彼らが実際には団部隊として運用されていた実態からみれば、恰好の目くらましになってしまったことだろう。だからといって、アレックスがただの張子の虎だったかと言えばそうではない。もともと機体の柔軟性がよかつた上、前述の各種新機能に加え、後のMSの標準装備となる“全周モニターシステム”と“リニアシート”的プロトタイプが装備されているのである。

これは、MSという機動兵器におけるインターフェイスを抜本的に転換する画期的な技術であり、その操作感覚は、既存のMSとも一線を画するものであったと言われている。事実、この機体は“ショーフィッター”と呼ばれるテストパイロットがアムロ用に調整、特化する過程において、当のパイロットでさえ舌を巻くほどの性能を発揮した。機動性、運動性も相次ぐ向上を遂げており、それはスペックの上からも知ることができる。機体のレスポンスは既存の機体に比較して3倍以上の反応速度を見せ、大量の推進装置が増設されたことによって、総推力も500000Kg台から170000Kg台にはね上がっている。この機体が実際にホワイトベース部隊に配備され、アムロ少尉の手に渡っていれば、目覚ましい戦果が期待できただろうと言われている。無論、この推力向上は、追加装甲を装備することによる自重の増加を見越してのことだったが、それでもこの数値は驚異的であるとすら言えるだろう。

事実、一年戦争終結後に、この機体の基本構造が取り入れられた機体が、わずかだが開発・量産されていることからも、“アレックス”的優秀さが理解できるだろう。



RX-78 NT-1  
Snap Shot

Parts name of  
RX-78 NT-1

Parts List

Head &  
Arm Unit

Leg &  
Weapons

Cockpit

Final Assemble



参考記録

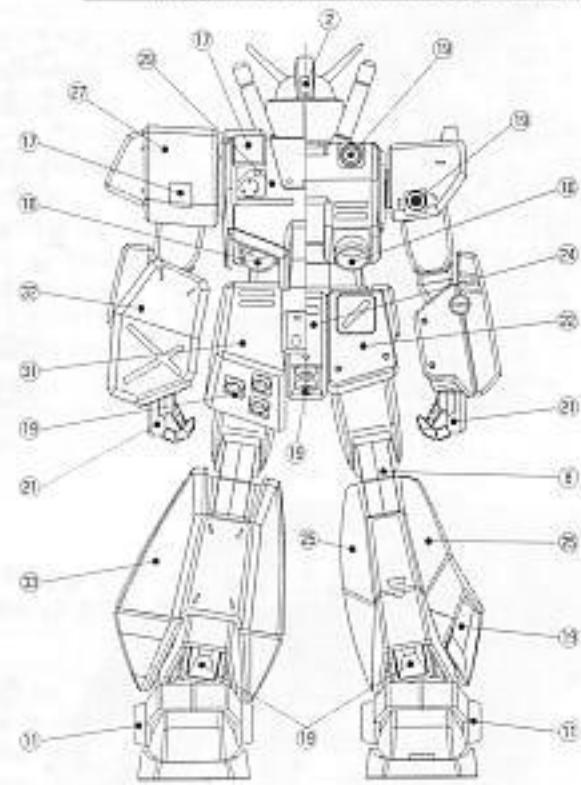
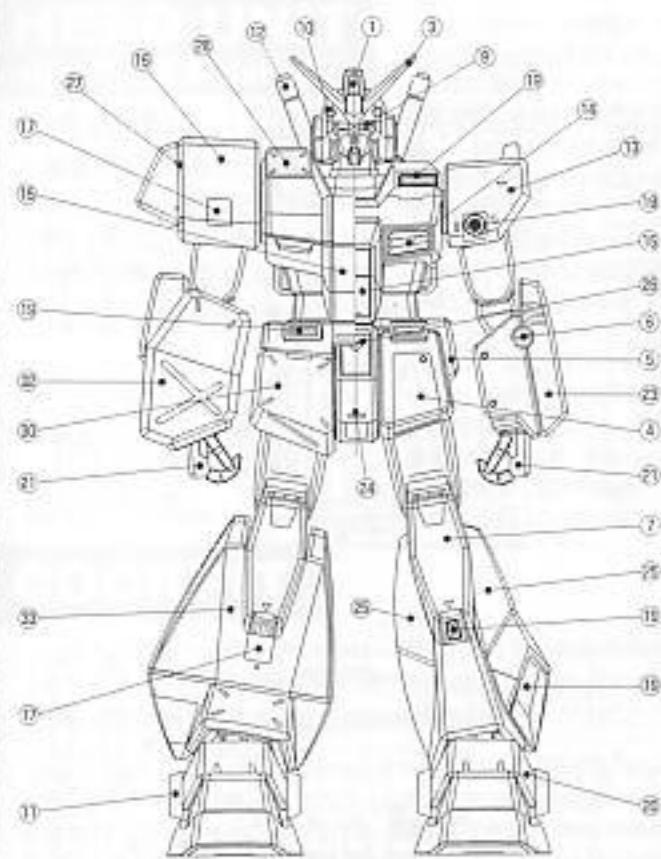
U.C.0079年7月、連邦軍におけるMS開発は、“ガンダム”を始めとするRXシリーズのロールアウトによって一応の成功を収めた。このデータは直ちにGM系の量産計画にフィードバックされ、並行する開発計画と統合された上で、量産が本格的に開始される運びとなった。と、同時に、その機体設計をベースとする次世代機の開発も検討されることになった。“V作戦”実動以前から進行していた“RX計画”に基づくMSの機能拡張である。その中には、水陸両用機や飛行実験型も少數ながら含まれており、研究課題としては、熟練者用の高性能機の開発も含まれていたのである。

アレックスを開発したオーガスタ基地は、もともと兵士のメンタルヘルスを扱う研究部門であったため、MSの制御系の改善とマンマシンインターフェイスを研究していた。ほぼ全城が公国軍の勢力下にあった北米大陸において制圧を免れたのは、施設の規模が小さく、地理的にも軍事的な脅威はないと判断されたためである。

同年8月には独自の設計による機体開発が始まり、11月中旬にはベルファスト基地に担当官が赴いて“ガンダム”的実働データを直接収集し、対MS戦における同機の戦闘履歴を勘案した追加装甲の有効性と、MSそのもののアーキテクチャーを刷新する新機軸のコクピット導入を前提とするコンセプトが作成されたのである。つまり、機体の耐弾性や追従性、視認性を改善することによって、搭乗者のストレスやパニックを軽減し、なおかつ近接戦闘状況に陥るまで、機体の戦闘能力を活用するというものである。

“アレックス”は、同年12月の2度に渡る戦闘によって大破するが、ここで開発された一連の技術は、非常に先進性に富んでおり、フルアーマーオペレーションやマグネットコーティング処理、全周モニターなど、後のMSに与えた影響は計り知れない。その意味でも、このRX-78 NT-1 “アレックス”という機体が持つ重要性は、計り知れないと言うことができるだろう。

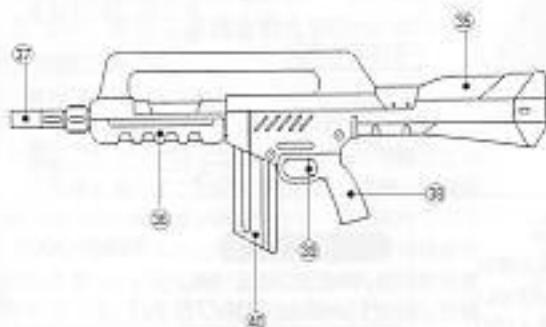
## GUNDAM RX-78 NT-1



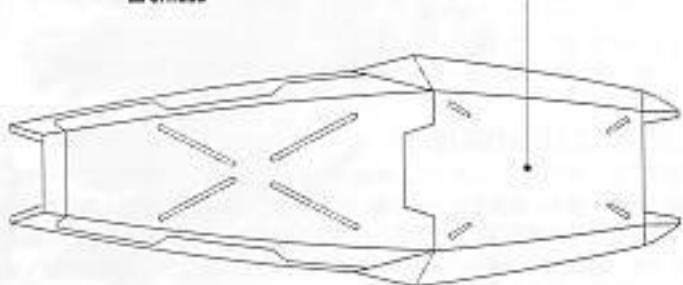
- |               |                 |                 |                |            |
|---------------|-----------------|-----------------|----------------|------------|
| ① メインカメラ      | ③ デュアルセンサー      | ⑤ アクセスポート       | ⑦ プロペラントブロック   | ⑨ レッグチョバム  |
| ② リアカメラ／センサー  | ⑩ 60mmパレカン      | ⑧ メインスラスター      | ⑩ エンブレム        | ⑩ シールド     |
| ③ マルチブレードアンテナ | ⑪ アンクルジョイントアーマー | ⑪ サブスラスター       | ⑪ ショルダーチョバム    | ⑪ ショルダーレスト |
| ④ フロントアーマー    | ⑫ ビームサーベル       | ⑫ アンクルサポートユニット  | ⑫ ブレストチョバム     | ⑫ フォアグリップ  |
| ⑤ サイドアーマー     | ⑬ ショルダーアーマー     | ⑬ マニピュレーター      | ⑬ パックパックチョバム   | ⑬ マズル      |
| ⑥ イジェクトボルト    | ⑭ ダクト／スラスター     | ⑭ リアアーマー        | ⑭ フロントウェストチョバム | ⑭ グリップ     |
| ⑦ ニーパッド       | ⑮ コクピットハッチ      | ⑮ クローキングバルカンカバー | ⑮ リアウエストチョバム   | ⑮ トリガー     |
| ⑧ ニージョイントアーマー | ⑯ メンテナンスハッチ     | ⑯ ペンチレートボックス    | ⑯ アームチョバム      | ⑯ マガジン     |

注) この機体は、12月上旬に連邦軍の北極基地を経由してサイド6の秘密基地に搬入され、最終調整を受けていた状態のものです。後に同機は同月下旬に2度ほど実戦に投入され、ほぼ半壊しています。

## ■ BEAM RIFLE



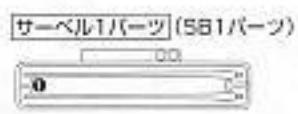
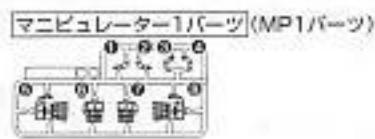
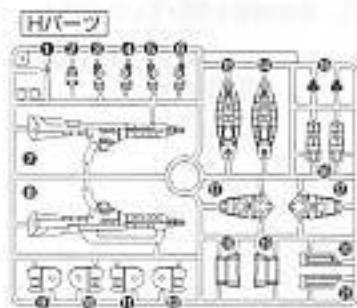
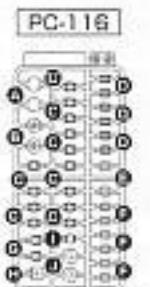
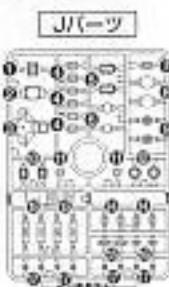
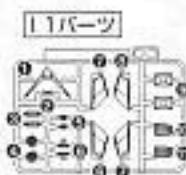
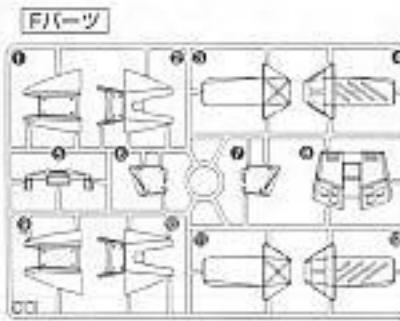
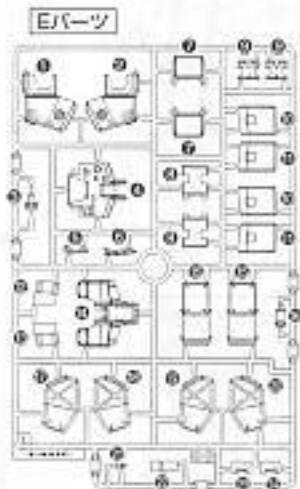
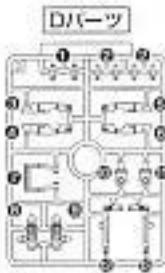
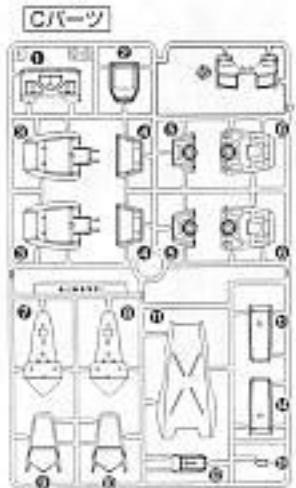
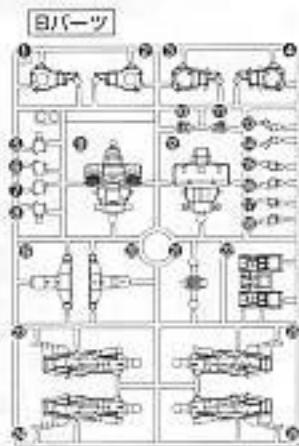
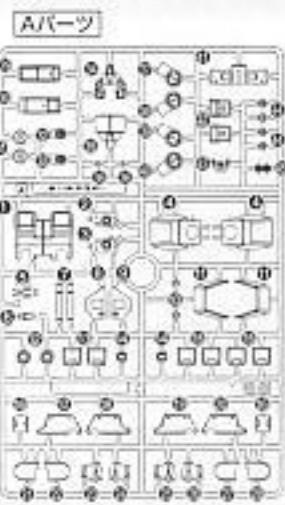
## ■ SHIELD



## ■ BEAM SABER



## パーツリスト



※P、D、E、G、Jは予備です。  
P、D、E、G、Jは使いません。

カラーシール……1枚  
マーキングシール……1枚  
ガンダムテカール……1枚  
ビス……2個

## 《お買い上げのお客様へ》

部品をこわしたり、なくした人には実費にてお分けします。「部品注文カード」に必要な部品の記号／番号／数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき下記までお申し込みください。代金は、部品代（1個40円×個数）+郵送料（120円）です。為替証書は預記入（白紙）で同時にください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じるときがあります。部品発送の際に120円を超える時は不足分を請求。120円以下の時には残額をお返しいたします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。（※ラバーパーツは各100円です。）

■申し込み先 (株)バンダイ静岡相談センター  
〒424-8735 静岡県清水市西久保305 TEL0543-65-5315

1999.10.7 - DN

部品注文カード 70949-3000  
1/100SCALE MGシリーズ  
ガンダム RX-78 NT-1

必要な部品の番号・数量をかく

●注記された理由(○で囲む)にわざなくした

部品の注文は「定額小為替」でお願いいた  
します。

'99.10

## △ 注意

## 必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。(鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。)
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息するおそれがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

※このキットの組み立てには+(プラス)ドライバーを使いますので別にご用意ください。

※サーベル1バーツとマニピュレーター1バーツの記号については、説明書の中ではそれぞれSB1とMP1と表示しています。

## ■アンテナ



## ■ラバーパーツ

※2個あります。



※部分をカットします。(3ヶ所)  
※指でつまみながらカットします。

## △ 注意

ハサミ・ニッパーなどでケガをしないように注意してカットしてください。

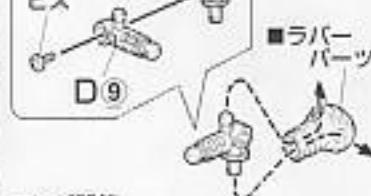
## ■肩関節

※2個  
作ります。



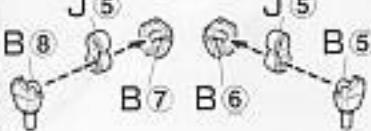
## ■ラバーパーツ

※2個あります。



## ■ヒジ関節

※2個あります。



## (組み立てる時の注意)

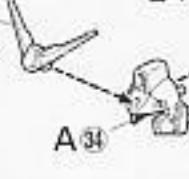
- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を理解し、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがったところがあるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 直後により安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

## 1 Head

## &lt;頭&gt;



## ■マスク



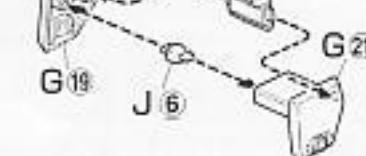
## 2 Shoulder Armor

## &lt;ショルダーアーマー&gt;



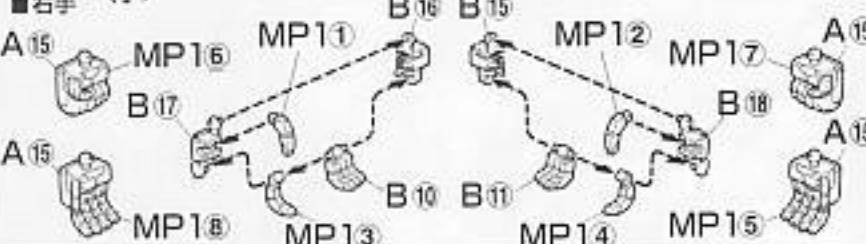
## 3

## 4



## 3 Manipulator

## ■右手&lt;手&gt;



## ■左手

## 4 Arm-1

## &lt;腕-1&gt;

## ■右上腕

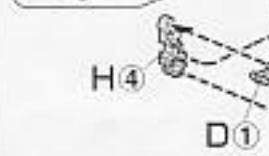
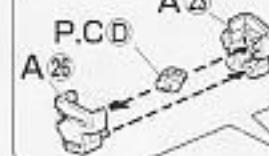


## ■左上腕



## ■前腕基部

※2個あります。



## GUNDAM for NEWTYPE

U.C.0079年12月09日。ニュータイプパイロットとして知られるアムロ・レイ少尉のため、1機のMSが建造された。RX-78NT-1、アレックスである。折しも、オーガスターから北極基地に輸入されたばかりのアレックスは、宇宙へ打ち上げられようとしていた。運行車が爆発したという「ニュータイプ用ガンダム」を、実戦投入させてはならない。アレックスを奪取、もしくは撃破すべく公園車が派遣した特種工作部隊(サイクロプス隊)の目前で、機体を載せたシャトルは宇宙へ飛び去ってしまった。北極基地でのアレックス襲撃に失敗したサイクロプス隊は、メンバーを失ったままだ。アレックスが移送されたサイドBに潜入するのだが……。

## VERSUS KÄMPFER

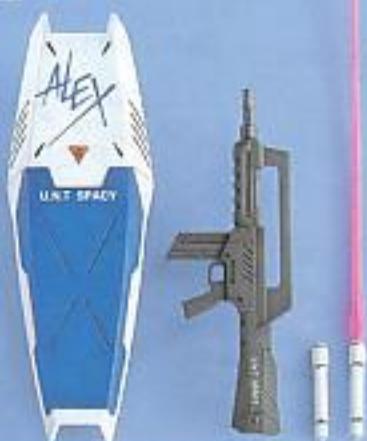
中立コロニー、サイドBでの開拓作戦に失敗し、不時着したザクから脱出した公園軍の青年パイロット、バーニー・ド・ワイスマン(バーニィ)は、補充登録としてサイクロプス隊に組み入れられ、アレックス奪取計画に加わることになる。市民を装ってリボーコロニーに潜入したバーニィは、そこで軍人に憧れる少年アルフレッド・イルハル(アル)と、彼の隣人で将のような存在のクリスチア・マッキンジー(クリス)と出会う。ひょんなことがからバーニィの手伝いをすることになってしまったアルは、アレックスの居所を探り出し、バーニィたちにその情報をもたらしてしまった。U.C.0079年12月18日、サイクロプス隊はクリスマスにむかう緊張的に、切り札のMSケンブラーを繰り出す。防衛のため出撃したクリスが乗るアレックスは、ケンブラーのチェーン・マイン攻撃により駆逐されたかに見えたところが、その攻撃は外装装甲のチョバム・アーマーを突破しただけだった。一瞬の隙をついて、アレックスはアームガトリングでケンブラーを撃破する。



## TRAGIC END

アレックス撃破という使命を果たせぬまま、サイクロプス隊は全滅してしまった。生き残ったバーニィは、上官のキーリング中佐がアレックス撃破のため往死でリボーコロニーへの核攻撃を決定したことを知る。このままでは、アルやクリスが住むこのコロニーが破壊されてしまう。それを防ぐには、アレックスを撃破するしかない。ところが、実はクリスこそがアレックスのメカニックテスティストパイロットだったのだ。そうとは知らず、バーニィはクリスに好感を抱いていた。このコロニーを、弟のようなアルを、そしてクリスを守るために、ガンダム駆逐を決意したのである。U.C.0079年12月25日、不時着したまま放置されていたザクの修理を終えたバーニィは、もはや既知だった公園の森に複数のトラップを仕掛け、相打ち覚悟でクリスの乗るアレックスに戦いを挑むのだった……。

## WEAPONS



## FULL ARMOR



# PAINTING

よりリアルに仕上げたいがたは、下の基本色をご参考ください。

本製品には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

本体腕・脚部分などの塗装色。  
ホワイト(EH-10)+トゥルーホワイト(EH-75)+ブルー(EH-79) 各10%

本体胸などの中間色。  
コリドブルー(70%)+インディブルー(20%)+ブルー(10%)

本体インテークなどの接觸色。  
オレンジイエロー(70%)+イエロー(20%)+オレンジ(10%)

頭部などの塗装色。  
ニュートラルグレー(EH-9)+オフホワイト(EH-79)+ブルー(EH-75) 各10%

コクピットハッチなどの塗装色。  
シャインレッド(80%)+レッド(20%)

武器などの塗装色。  
ニュートラルグレー(70%)+ブラック(20%)+ホワイト(10%)

後部部カメラの塗装色。  
クリアグリーン(100%)

## FRONT VIEW



REAR VIEW

◀ 開閉式のコクピットハッチをはじめシートやパイロットを再現。



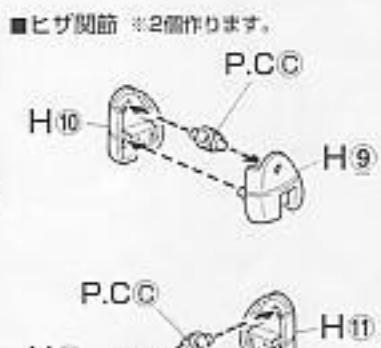
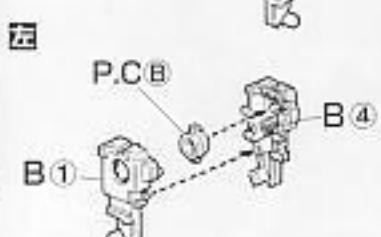
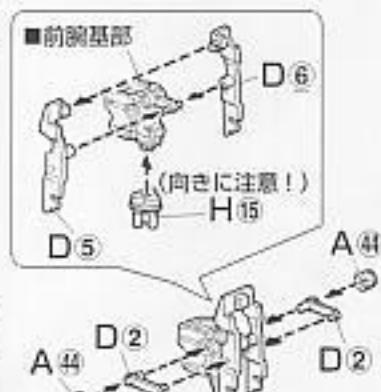
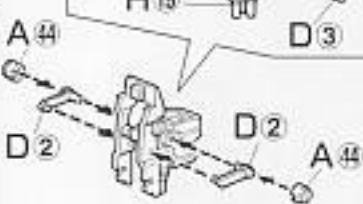
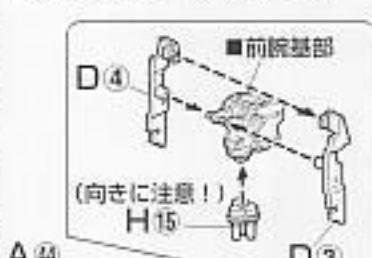
▼ 腕部カバーのスライド展開ギミックによりアームガトリング発射状態が再現可能。



△ 股部の装甲は、脱着可能。内部メカニックを精密に表現。

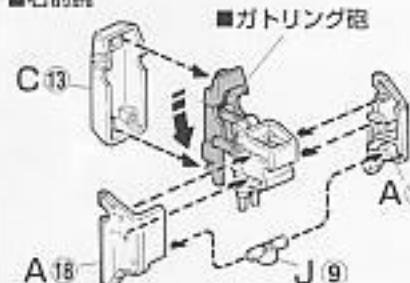


■ガトリング砲 \*2個作ります。

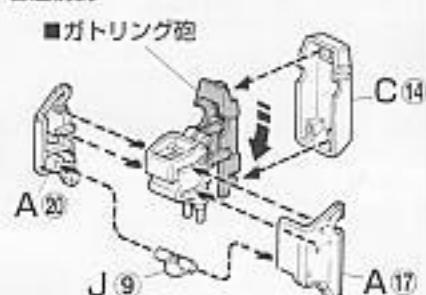
**Arm-2**

&lt;腕-2&gt;

■右前腕

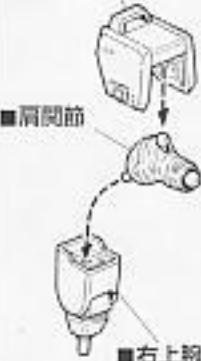


■左前腕



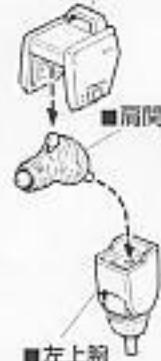
■右肩

■ショルダー アーマー



■左肩

■ショルダー アーマー



■右腕



■左腕

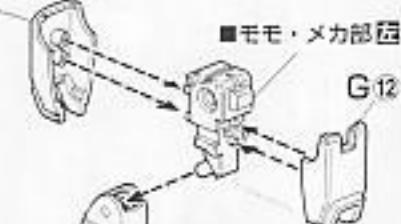
**Leg-1**

&lt;スネ-1&gt;

■モモ・メカ部

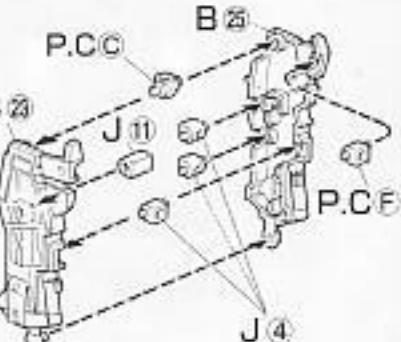
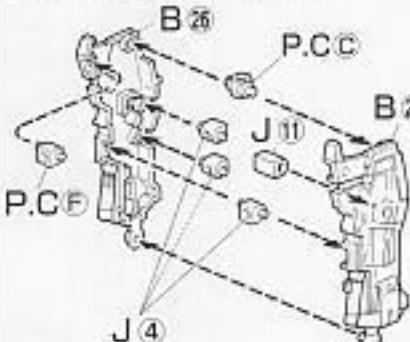


■左モモ



■ヒザ関節 \*2個作ります。

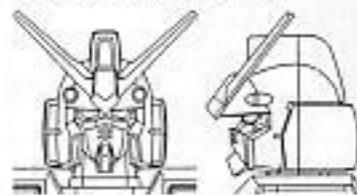
■スネ・メカ部 \*2個作ります。



# HEAD UNIT

## HU-0078A2 Serial 0007

RX-78NT-1の頭部は、部品調達の問題のほか、制御系統のコンセプトの刷新などの理由によって、シルエットこそ“ガンダム”を模しているものの、ほぼ別系統のユニットになっている。



RX-78NT-1の頭部は、ガンダムとほぼ同等の光学端末がデュアル構成されているほか、新システムのモニターに対応した空間走行用の端末が追加実装されている。各種、デバイスやセンサー類は、機能を維持したまま小型化され、データ収集や稼働ソフトの検証に必要な創意的コ・プロセッサーフレームとしての機能やモニタリング用装備などのサブシステムが新たに装備されている。これら新規の部品調達には、後にアナハイム・エレクトロニクスの関連企業となるケベックオントechやコロラドサーブ、ノーフォーク産業などが参与しており、これらの企業はGM系の機体のOEM生産などを請け負っていたと言われている。デュアルセンサーのカバーや頭部パリケン砲など、弾頭の形状や材質、炸薬のエマルジョンが異なっているため、既存の機体との互換性は低いが、後の機体には、こちらの規格に適合したものも多い。

# COCKPIT

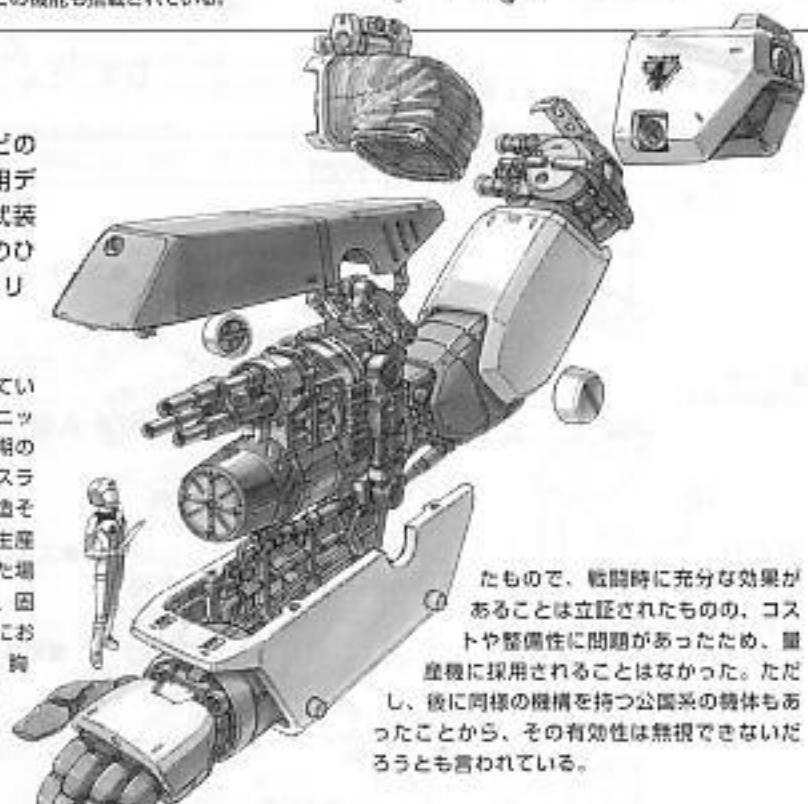
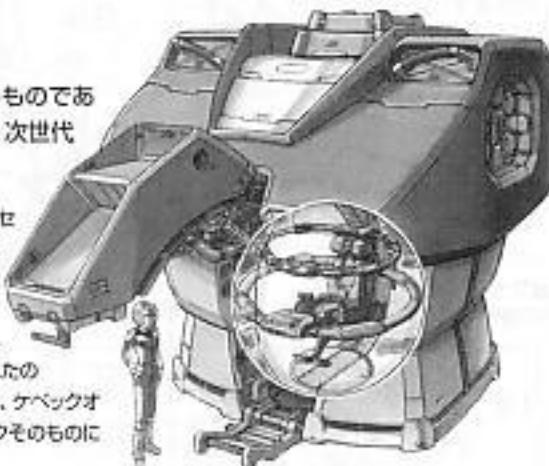
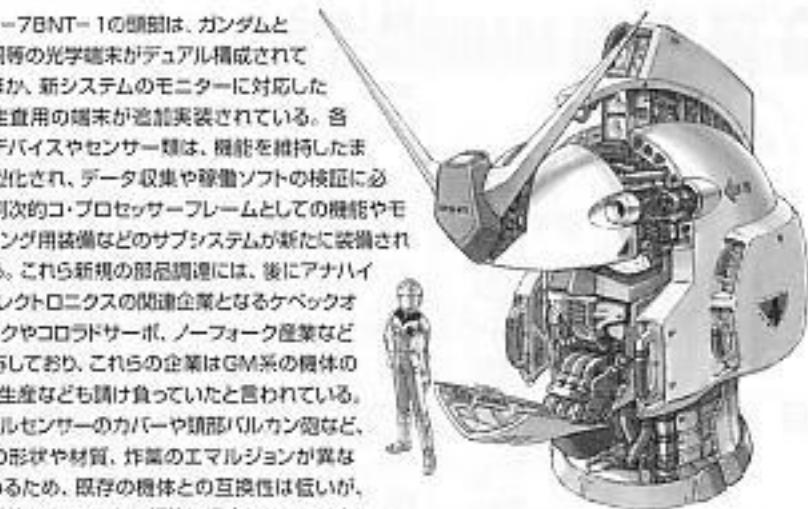
RX-78NT-1のコクピットは、MSの構造そのものを刷新するものであった。そのコンセプトは実質的に時代を先取りしており、この構造は、次世代のMSの標準的システムとなる画期的なものだったのである。

RX-78NT-1のコクピットブロックは、それまでのコクピットとは全く異なるコンセプトによってデザインされている。パイロットの周囲を取り囲むように全周モニターが配置されているのは、当初の目的としては、搭乗者の死角を無くすという目的で開発されていたものだが、パイロット自身が“MSそのものであるかのような視点”を得ることが可能であることが判明し、かつてジオン・ダイケンが唱えた「洞察力の拡大した存在」としての、いわゆるニュータイプ能力の発露に有効なのではないかと考えられたのである。これはオーガスターのスタッフが、「ニュータイプ」対応の制御装置として開発し、ケベックオントechの技術が仕上げたものだと言われている。加えて、球形のコクピットブロックそのものには、脱出、あるいは機密された生存用のブロックとしての機能も搭載されている。

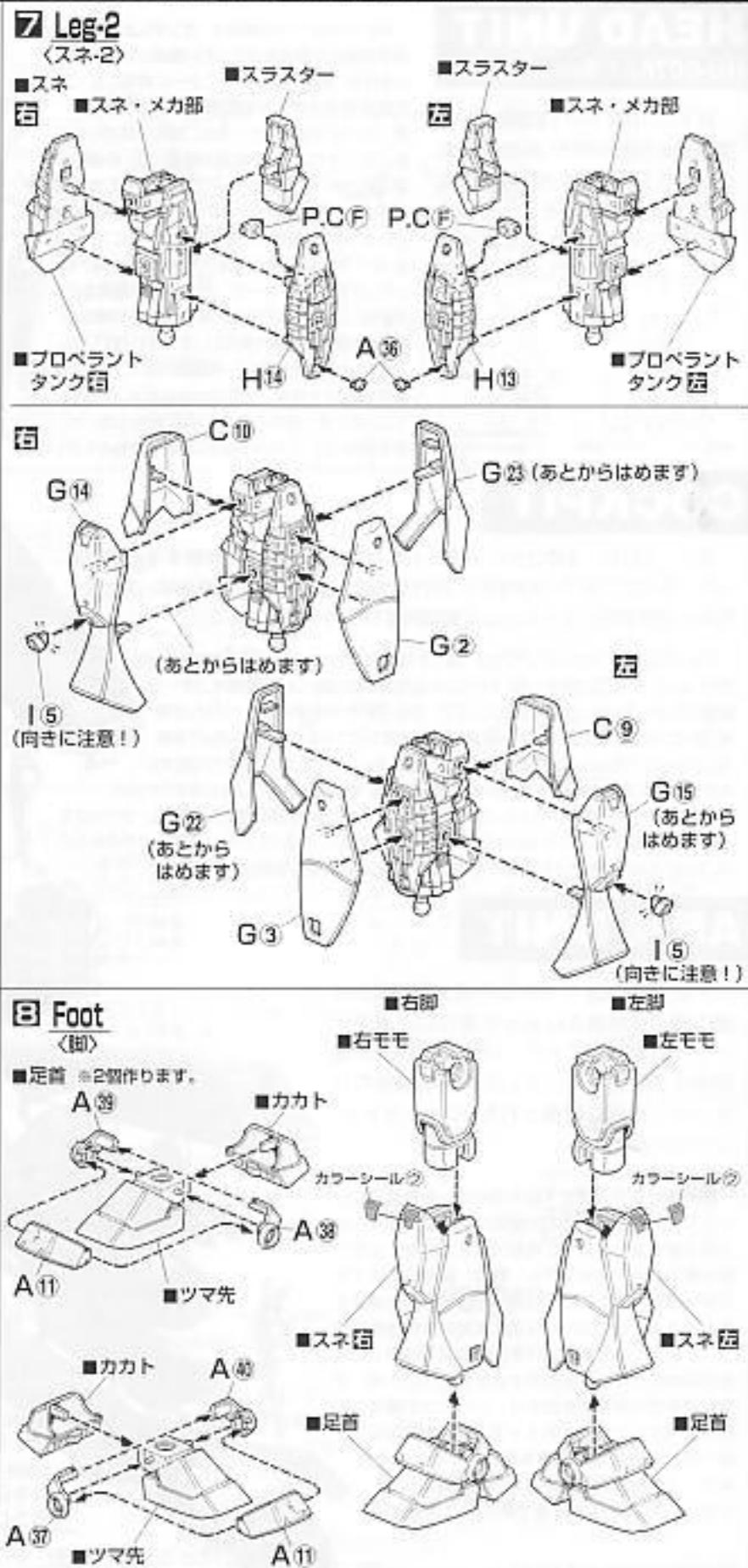
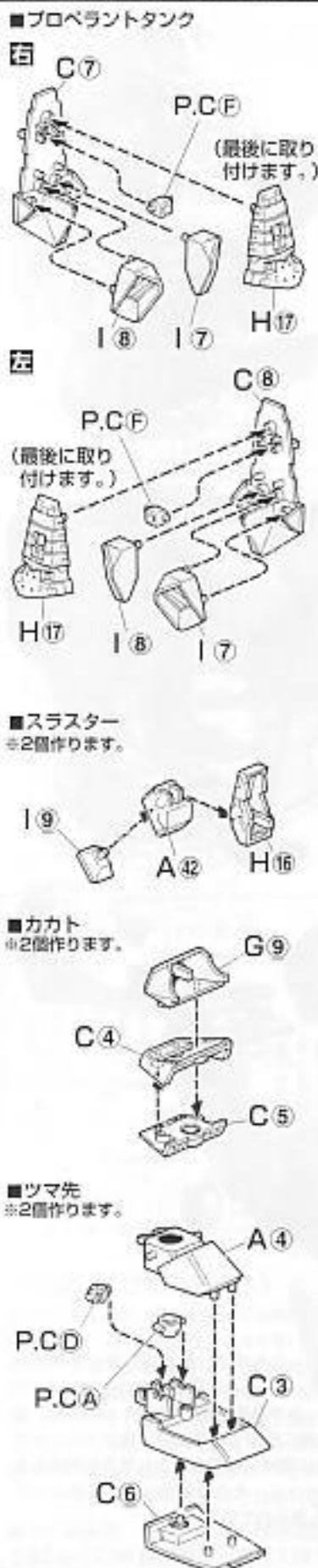
# ARM UNIT

RX-78NT-1には、ガンダムなどの試作機の実戦投入によって得られた運用データが反映されており、いわゆる固定武装の強化も懸案となっていた。その解答のひとつが、腕部に装備された90mmガトリング砲である。

連邦製MSは、フィールドモーターを使用しているため、ユニット自体の小型化に伴って可動ユニットの容積を減らすことが可能だった。実際、初期の試作機であった“ガンダム”自体、腕部にサブランスターを装備することも可能だったし、その構造そのものをスリム化したジム系の量産機も相当数生産されていた。併せて、携行武装を消耗、損壊した場合の戦闘能力の低下を指揮する声もあったため、固定武装を追加装備する試みは、いくつかの機体において実行されていた。RX-79系の機体の内、腕部に機銃を装備した種類も存在したのである。NT-1の腕部に装備された遮蔽式ガトリング砲なども、同様の事情で試験的に装備され

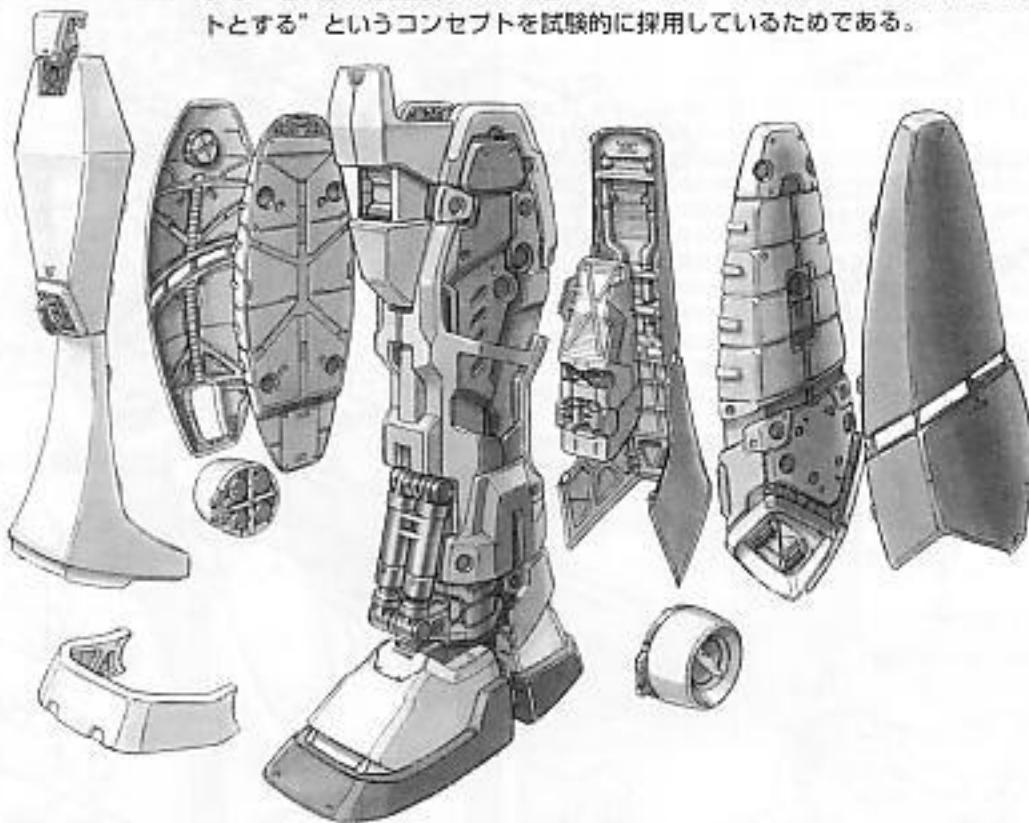


たもので、戦闘時に充分な効果があることは立証されたものの、コストや整備性に問題があったため、量産機に採用されることにはなかった。ただし、後に同様の機構を持つ公認系の機体もあったことから、その有効性は無視できないだろうとも言われている。



## LEG UNIT

RX-78NT-1の脚部は、既存の連邦系の機体とは異なるシルエットを持っている。それは、公国製MSに顕著となっていた“脚部自体を巨大なバーニアユニットとする”というコンセプトを試験的に採用しているためである。



RX-78NT-1は、当初からフルアーマーオペレーションを想定した機体だった。そのため、機体の機動性を損なわないように、機体各所にはスラスターーやアポジモーターが増設されており、それに伴ってプロペラントの積載量の増加が前提とされていた。そこで、当時の公国系MSの多くが採用していた“脚部自体を巨大なバーニアユニットに見立てる”というコンセプトを採用し、レッグユニットにサブスラスターとプロペラントタンクを一体化したユニットを装着するという構造を取り入れているのである。これは、“ガンダム”的実験データから、胫部分の応力解析が進み、予想されていた金属疲労係数が、当

初危惧されていた「機体損壊」をもたらすほどのものではないことが判明したためである。当時の連邦系MSの多くが、いわゆる“ふくらはぜ”状のシルエットを持つのは、それより下にプロペラントタンクを搭載するのは危険だと考えられていたため、事実上、それが祀事に過ぎないことが明らかとなった。また、その実証試験の意味もあって、RX-78NT-1の脚部には、大容量のプロペラントタンクが標準で実装されることになったのである。もっとも、この処理自体、追加装甲の採用が前提だったための事例であり、通常の運用が想定される機体には不要の処置ではある。

## WEAPONS

Bauva・Norfolk XBR-L Type-3

Blash・XB-B-09

RX・C-Sh-05 UBC/S-0003



BEAM RIFLE

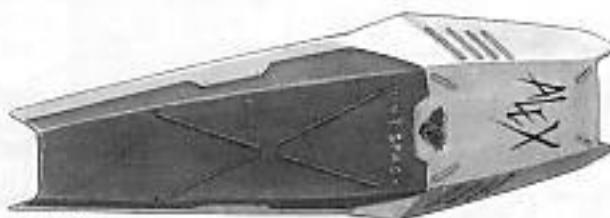
RX-78のビームライフルに比べ、出力と集束率を向上させることで貫通力を高めたビームライフル。ビーム発振器はボウワ社製だが、集束装置とハウジングはノーフォーク産業が担当した。

製造拠点の問題などもあって、RX-78NT-1には、専用の武装が調達される予定であった。ただし、ビームの集束装置やユニットなどに独自のデバイスが用いられているため、性能や形状が独特のものとなっている。



BEAM SABER

ビームサーベルは、ガンダムやほとんどのジムのものと同じ性能を持つものの、ユニットそのものと、バックパックのコネクターがフラッシュ社製のため、形状や配置が異なっている。



SHIELD

シールドは、オーガスタ津造場が、ショバム・アーマーの構造を流用したものに、独自の組成による耐ビームコーティングを施したもので、この基本レシピは後のGPシリーズ等の一部の連邦の機体でも流用されている。

RX-78 NT-1  
Snap Shot

Parts name of  
RX-78 NT-1

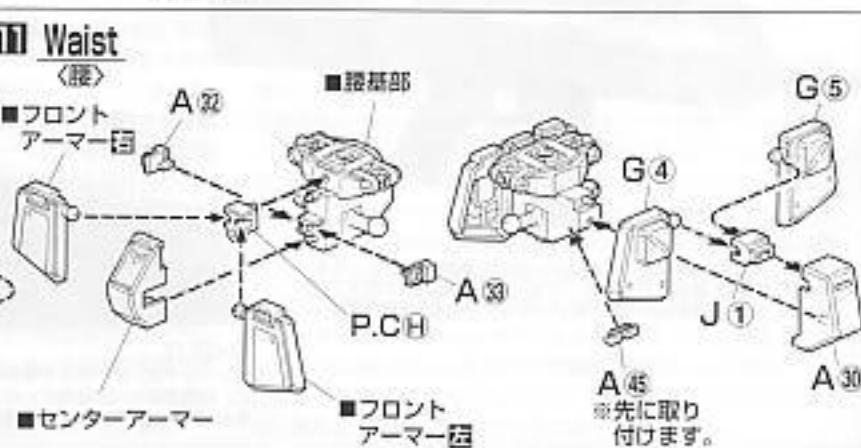
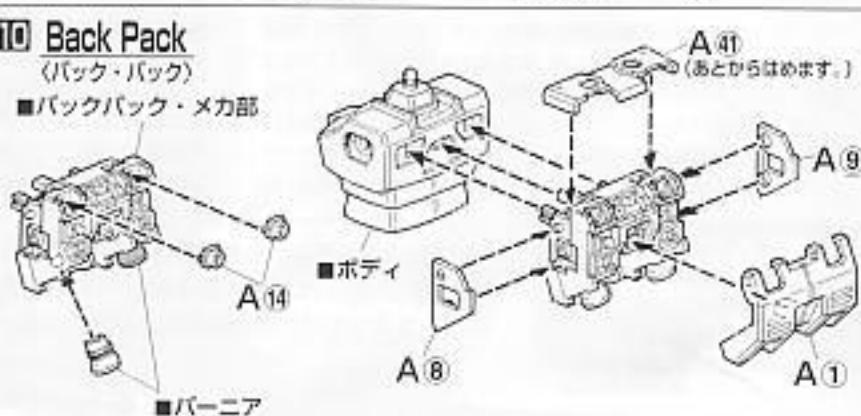
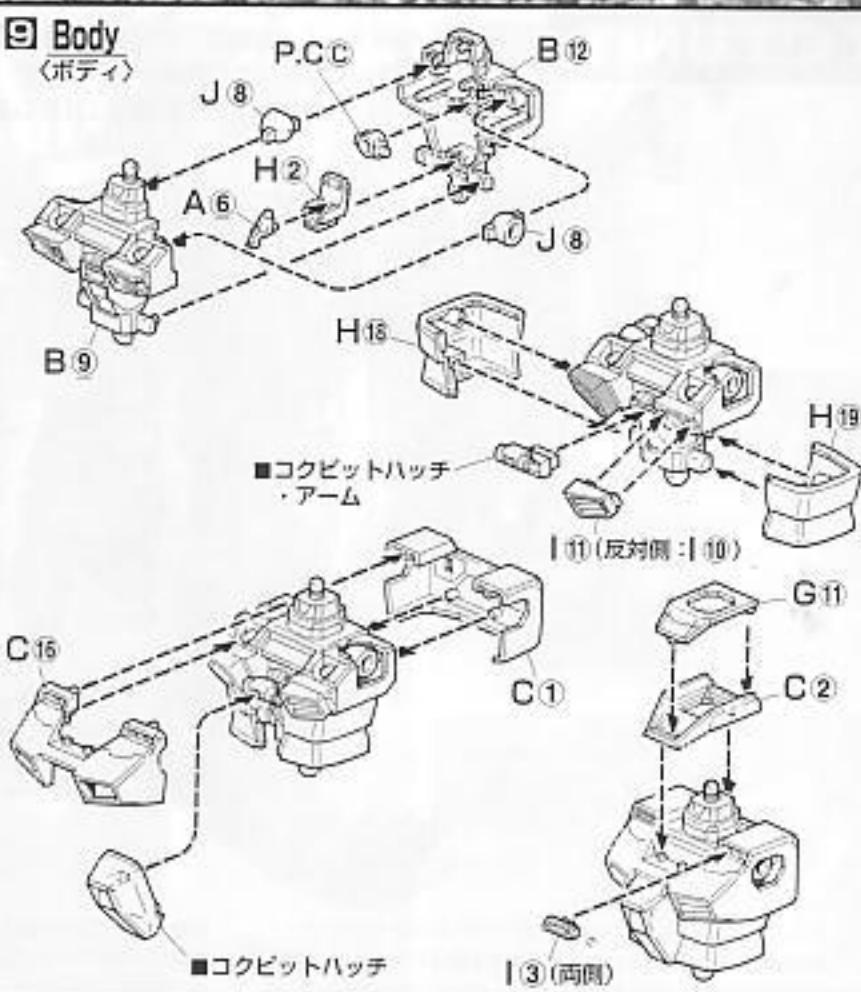
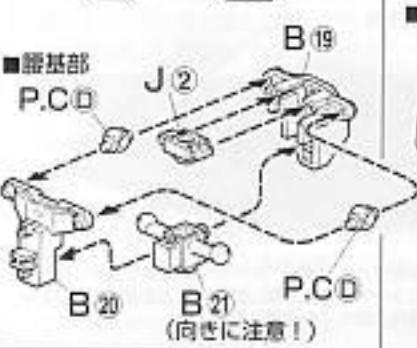
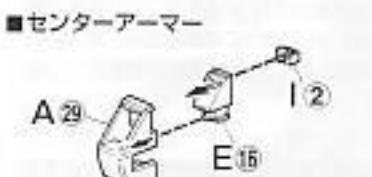
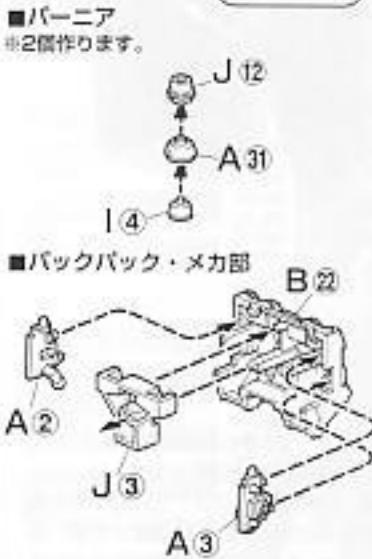
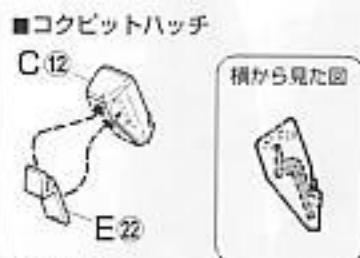
Parts List

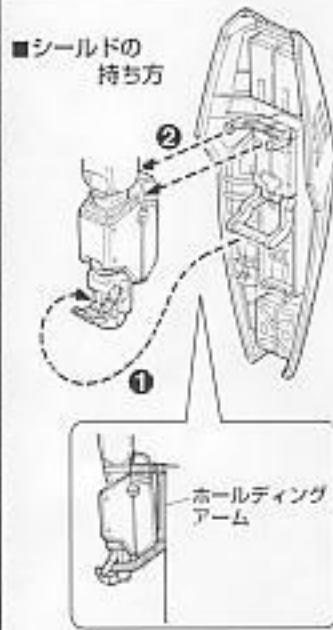
Head &  
Arm Unit

Leg &  
Weapons

Cockpit

Final Assembly



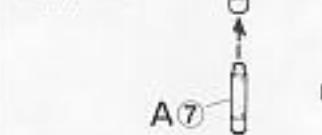


## 12 Weapons

〈武器〉  
■ビームライフル



■ビームサーベル  
※2個作ります。



■シールド

G<sub>8</sub>

G<sub>1</sub>

C<sub>11</sub>

G<sub>11</sub>

G<sub>12</sub>

G<sub>13</sub>

G<sub>14</sub>

G<sub>15</sub>

G<sub>16</sub>

G<sub>17</sub>

G<sub>18</sub>

G<sub>19</sub>

G<sub>20</sub>

G<sub>21</sub>

G<sub>22</sub>

G<sub>23</sub>

G<sub>24</sub>

G<sub>25</sub>

G<sub>26</sub>

G<sub>27</sub>

G<sub>28</sub>

G<sub>29</sub>

G<sub>30</sub>

G<sub>31</sub>

G<sub>32</sub>

G<sub>33</sub>

G<sub>34</sub>

G<sub>35</sub>

G<sub>36</sub>

G<sub>37</sub>

G<sub>38</sub>

G<sub>39</sub>

G<sub>40</sub>

G<sub>41</sub>

G<sub>42</sub>

G<sub>43</sub>

G<sub>44</sub>

G<sub>45</sub>

G<sub>46</sub>

G<sub>47</sub>

G<sub>48</sub>

G<sub>49</sub>

G<sub>50</sub>

G<sub>51</sub>

G<sub>52</sub>

G<sub>53</sub>

G<sub>54</sub>

G<sub>55</sub>

G<sub>56</sub>

G<sub>57</sub>

G<sub>58</sub>

G<sub>59</sub>

G<sub>60</sub>

G<sub>61</sub>

G<sub>62</sub>

G<sub>63</sub>

G<sub>64</sub>

G<sub>65</sub>

G<sub>66</sub>

G<sub>67</sub>

G<sub>68</sub>

G<sub>69</sub>

G<sub>70</sub>

G<sub>71</sub>

G<sub>72</sub>

G<sub>73</sub>

G<sub>74</sub>

G<sub>75</sub>

G<sub>76</sub>

G<sub>77</sub>

G<sub>78</sub>

G<sub>79</sub>

G<sub>80</sub>

G<sub>81</sub>

G<sub>82</sub>

G<sub>83</sub>

G<sub>84</sub>

G<sub>85</sub>

G<sub>86</sub>

G<sub>87</sub>

G<sub>88</sub>

G<sub>89</sub>

G<sub>90</sub>

G<sub>91</sub>

G<sub>92</sub>

G<sub>93</sub>

G<sub>94</sub>

G<sub>95</sub>

G<sub>96</sub>

G<sub>97</sub>

G<sub>98</sub>

G<sub>99</sub>

G<sub>100</sub>

G<sub>101</sub>

G<sub>102</sub>

G<sub>103</sub>

G<sub>104</sub>

G<sub>105</sub>

G<sub>106</sub>

G<sub>107</sub>

G<sub>108</sub>

G<sub>109</sub>

G<sub>110</sub>

G<sub>111</sub>

G<sub>112</sub>

G<sub>113</sub>

G<sub>114</sub>

G<sub>115</sub>

G<sub>116</sub>

G<sub>117</sub>

G<sub>118</sub>

G<sub>119</sub>

G<sub>120</sub>

G<sub>121</sub>

G<sub>122</sub>

G<sub>123</sub>

G<sub>124</sub>

G<sub>125</sub>

G<sub>126</sub>

G<sub>127</sub>

G<sub>128</sub>

G<sub>129</sub>

G<sub>130</sub>

G<sub>131</sub>

G<sub>132</sub>

G<sub>133</sub>

G<sub>134</sub>

G<sub>135</sub>

G<sub>136</sub>

G<sub>137</sub>

G<sub>138</sub>

G<sub>139</sub>

G<sub>140</sub>

G<sub>141</sub>

G<sub>142</sub>

G<sub>143</sub>

G<sub>144</sub>

G<sub>145</sub>

G<sub>146</sub>

G<sub>147</sub>

G<sub>148</sub>

G<sub>149</sub>

G<sub>150</sub>

G<sub>151</sub>

G<sub>152</sub>

G<sub>153</sub>

G<sub>154</sub>

G<sub>155</sub>

G<sub>156</sub>

G<sub>157</sub>

G<sub>158</sub>

G<sub>159</sub>

G<sub>160</sub>

G<sub>161</sub>

G<sub>162</sub>

G<sub>163</sub>

G<sub>164</sub>

G<sub>165</sub>

G<sub>166</sub>

G<sub>167</sub>

G<sub>168</sub>

G<sub>169</sub>

G<sub>170</sub>

G<sub>171</sub>

G<sub>172</sub>

G<sub>173</sub>

G<sub>174</sub>

G<sub>175</sub>

G<sub>176</sub>

G<sub>177</sub>

G<sub>178</sub>

G<sub>179</sub>

G<sub>180</sub>

G<sub>181</sub>

G<sub>182</sub>

G<sub>183</sub>

G<sub>184</sub>

G<sub>185</sub>

G<sub>186</sub>

G<sub>187</sub>

G<sub>188</sub>

G<sub>189</sub>

G<sub>190</sub>

G<sub>191</sub>

G<sub>192</sub>

G<sub>193</sub>

G<sub>194</sub>

G<sub>195</sub>

G<sub>196</sub>

G<sub>197</sub>

G<sub>198</sub>

G<sub>199</sub>

G<sub>200</sub>

G<sub>201</sub>

G<sub>202</sub>

G<sub>203</sub>

G<sub>204</sub>

G<sub>205</sub>

G<sub>206</sub>

G<sub>207</sub>

G<sub>208</sub>

G<sub>209</sub>

G<sub>210</sub>

G<sub>211</sub>

G<sub>212</sub>

G<sub>213</sub>

G<sub>214</sub>

G<sub>215</sub>

G<sub>216</sub>

G<sub>217</sub>

G<sub>218</sub>

G<sub>219</sub>

G<sub>220</sub>

G<sub>221</sub>

G<sub>222</sub>

G<sub>223</sub>

G<sub>224</sub>

G<sub>225</sub>

G<sub>226</sub>

G<sub>227</sub>

G<sub>228</sub>

G<sub>229</sub>

G<sub>230</sub>

G<sub>231</sub>

G<sub>232</sub>

G<sub>233</sub>

G<sub>234</sub>

G<sub>235</sub>

G<sub>236</sub>

G<sub>237</sub>

G<sub>238</sub>

G<sub>239</sub>

G<sub>240</sub>

G<sub>241</sub>

G<sub>242</sub>

G<sub>243</sub>

G<sub>244</sub>

G<sub>245</sub>

G<sub>246</sub>

G<sub>247</sub>

G<sub>248</sub>

G<sub>249</sub>

G<sub>250</sub>

G<sub>251</sub>

G<sub>252</sub>

G<sub>253</sub>

G<sub>254</sub>

G<sub>255</sub>

G<sub>256</sub>

G<sub>257</sub>

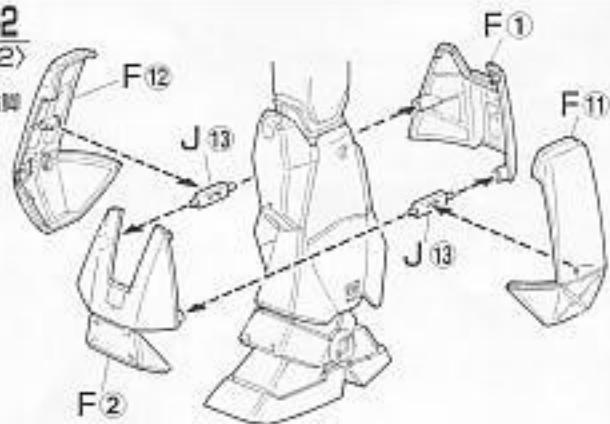
G<sub>258</sub>

G<sub>259</sub>

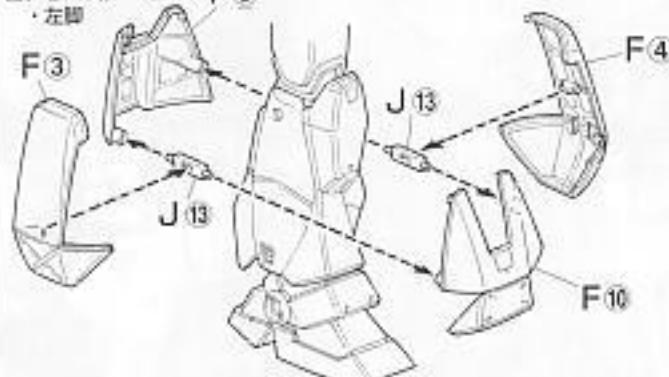
## 16 Chobam Armor-2

&lt;チョバムアーマー-2&gt;

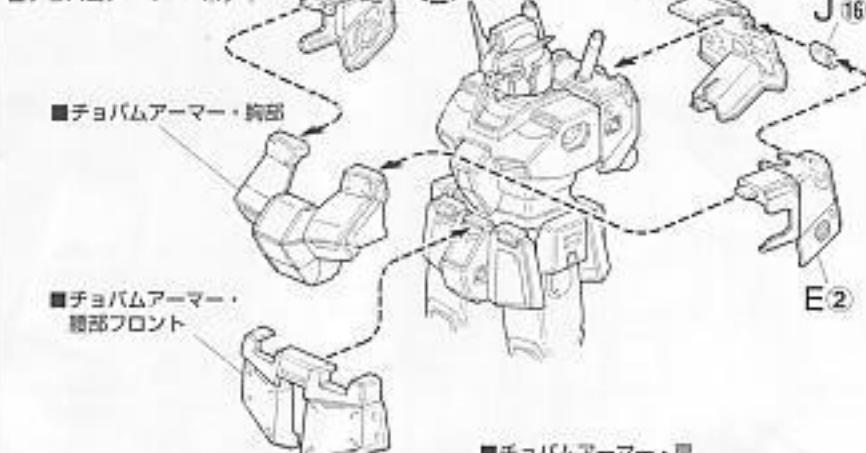
■チョバムアーマー・右脚



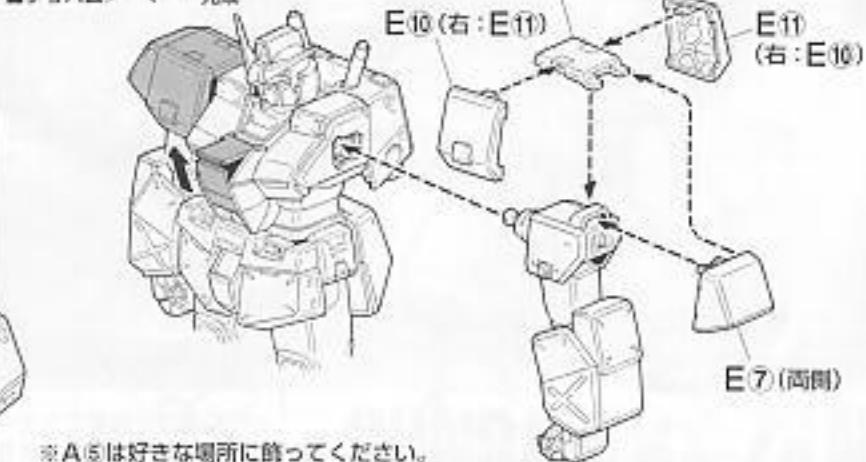
■チョバムアーマー・左脚



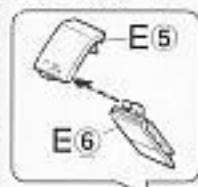
■チョバムアーマー・ボディ



■チョバムアーマー・完成

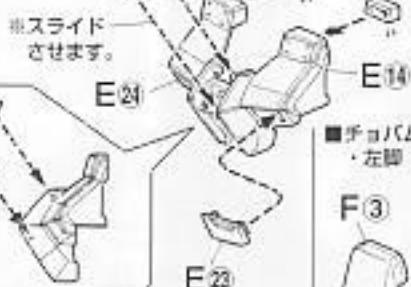


■チョバムアーマー・胸部



(向きに注意!)

J15 前□後□



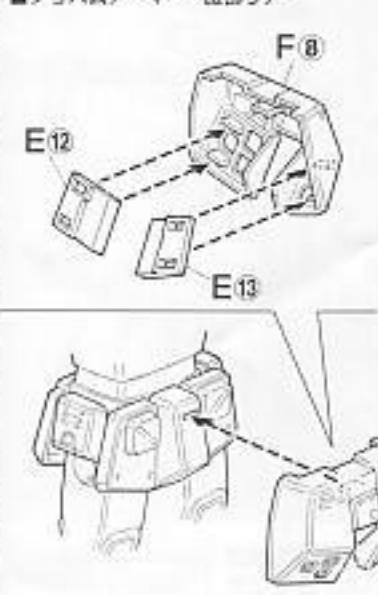
■チョバムアーマー・腰部フロント



■チョバムアーマー・肩



■チョバムアーマー・腰部リア



## Seal

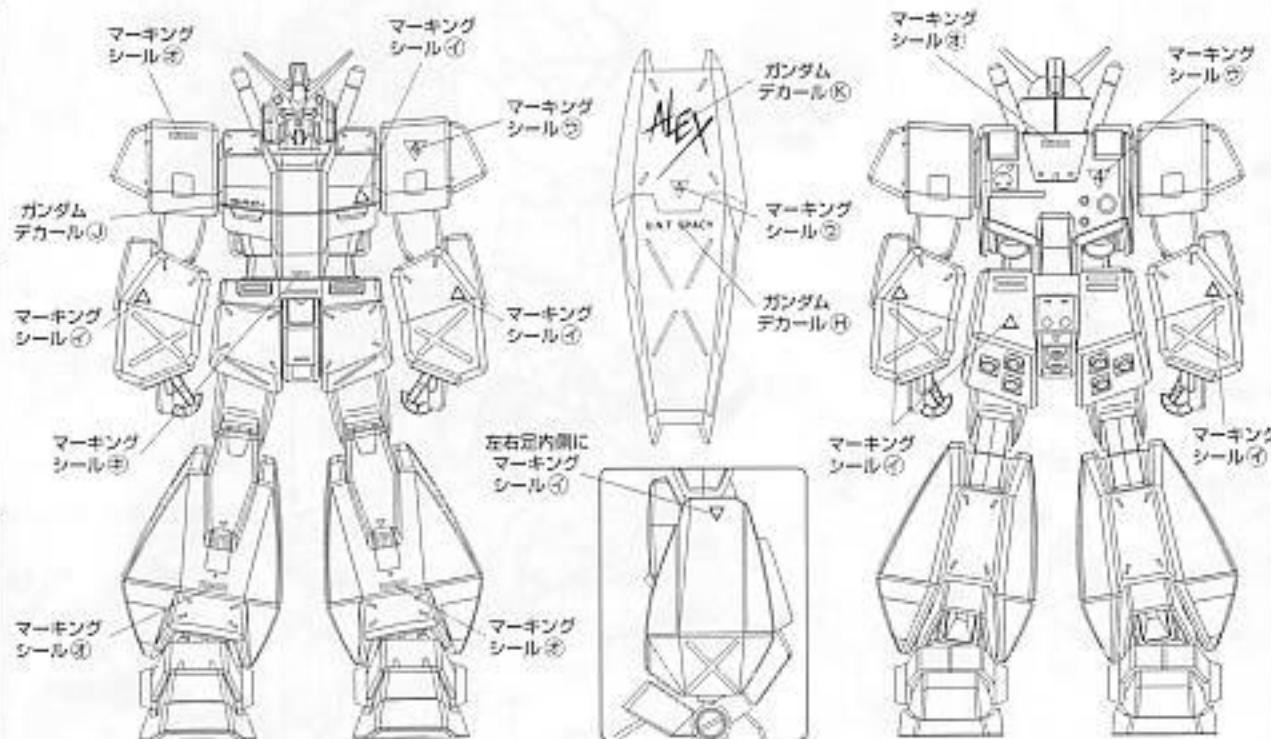
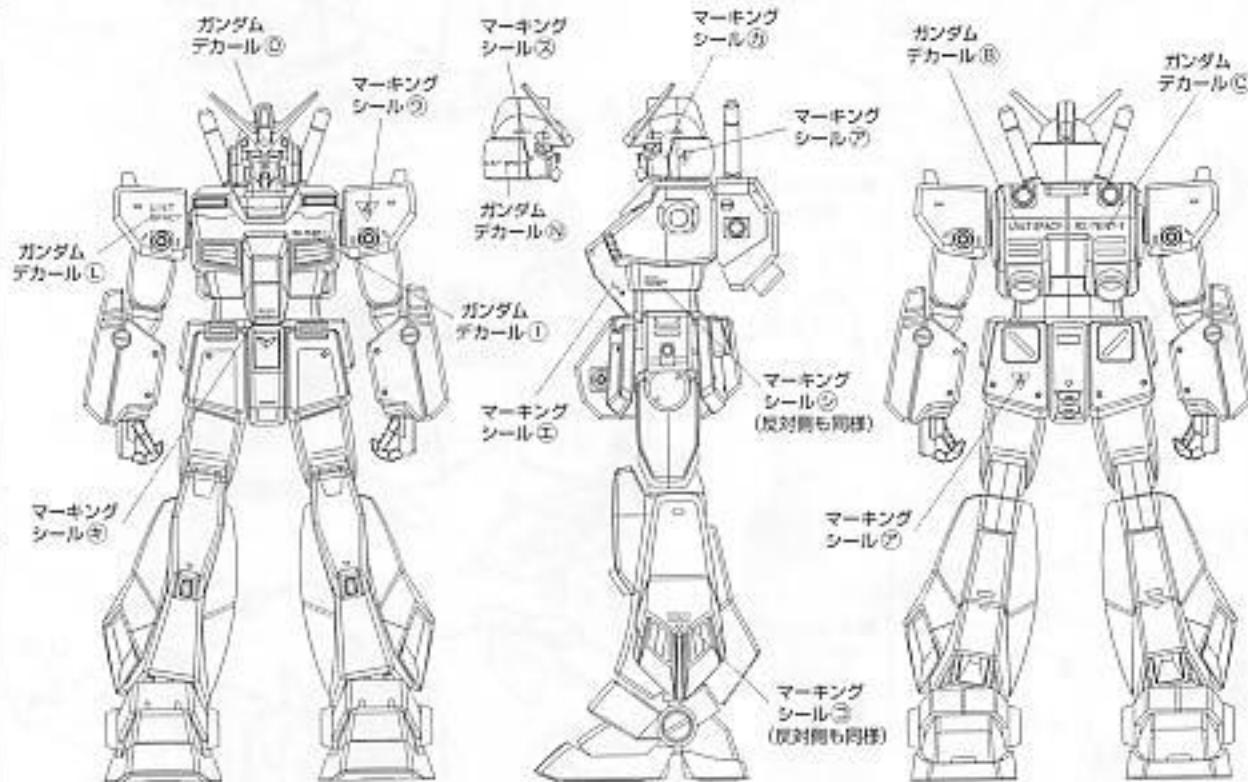
下の図を見て、ガンダムデカールやシールのはる位置を確認してください。

ガンダムデカールのはりかた。

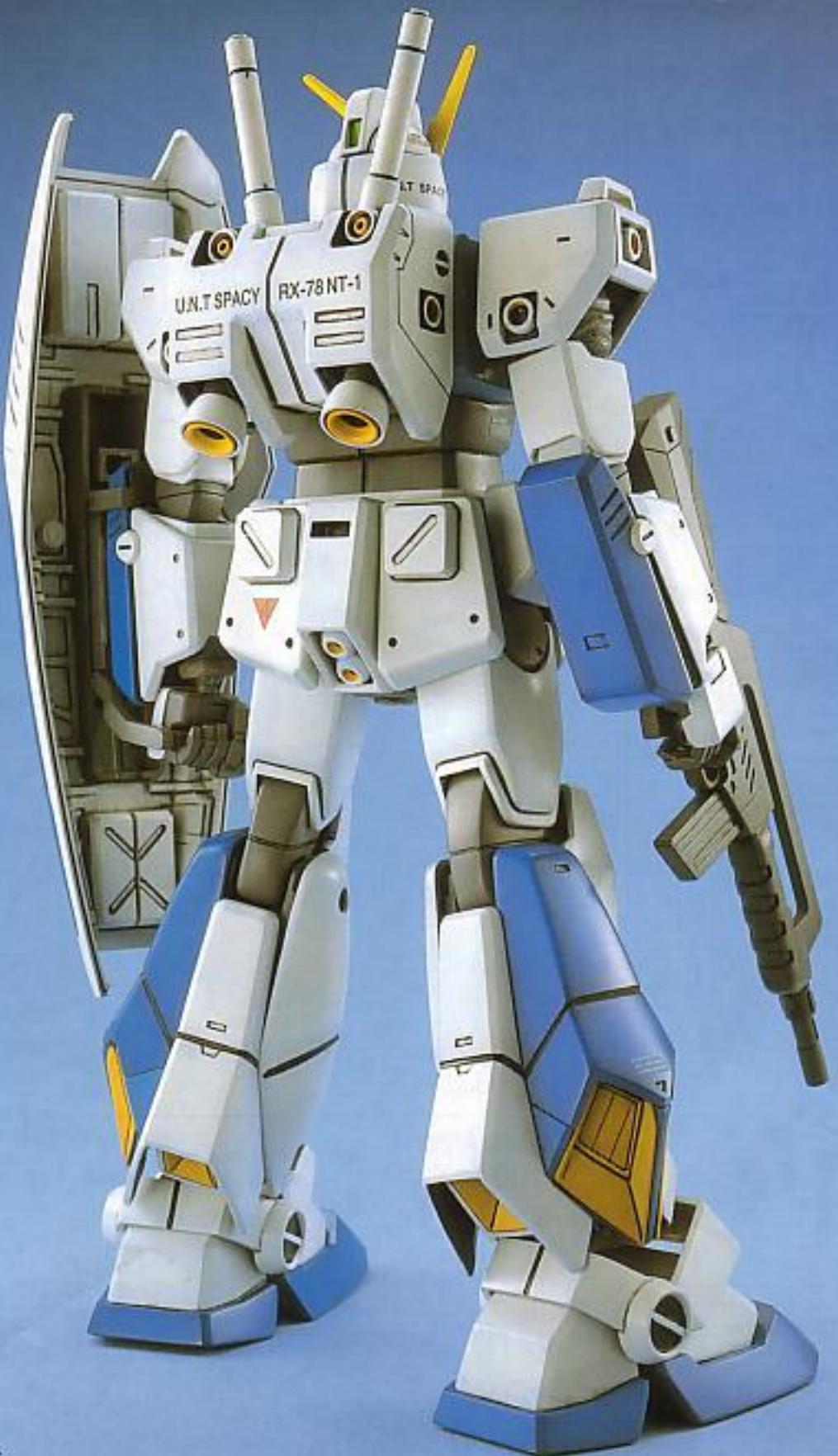
- 転写するマークを大まかに切ります。
- 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
- シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。



ガンダム  
デカール⑤



おもったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。



協力：ホビージャパン



地球連邦軍ニュータイプ専用モビルスーツ  
ガンダム RX-78 NT-1  
1/100スケール  
マスターグレードモデル

**GUNDAM RX-78NT-1**  
EESE PROTOTYPE MOBILE SUIT FOR NEWTYPE

Scanned by Dafong.net